

平成29年度 国立大隅青少年自然の家 地域力向上事業 ひとりでできる1年生 おおすみくん家 キッズクラブ①・②

- 1 趣 旨 小学1年生の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、遊んだり、協力したりする体験を通して、人とかかわる力や基本的な生活習慣を身に付けるとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 第1回目：平成29年6月17日（土）～18日（日） 1泊2日
第2回目：平成29年9月 9日（土）～10日（日） 1泊2日
- 3 対象者 小学1年生
- 4 募集定員 32人 （申込者：176人）
- 5 参加者 32人
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員
鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター研修主事



7 日程と主な活動

(1) 第1回目（本館泊）

6月17日(土)		6月18日(日)	
10:00	・受 付	6:00	・起 床
10:30	・出会いのつどい		・荷物の整理
	・オリエンテーション	7:00	・朝のつどい
10:45	<チャレンジ1>「ふれあいタイム」	7:30	・朝 食（レストラン）
	・昼 食（レストラン）	8:30	・部屋、ろう下、トイレ清掃
12:00	・荷物の整理 ベッドメイキング	9:30	<チャレンジ4>
13:30	<チャレンジ2>		ハイキングにチャレンジ
	「元気よく遊ぼう」		錦江湾眺望ハイキング
	フィールドアスレチック	12:00	・昼 食（弁当）
18:00	・夕 食（レストラン）	14:00	・ふりかえりタイム
19:00	・入 浴	14:30	・別れのつどい
20:00	<チャレンジ3>「読書を楽しもう」	15:00	・解 散
21:00	・就 寝		

(2) 第2回目（新城海の家泊）

9月9日（土）		9月10日（日）	
14:00	・受 付	6:00	・起 床
14:30	・出会いのつどい	6:30	・朝のつどい
	・オリエンテーション	7:00	・朝 食（洋朝食）
15:00	<チャレンジ1>	8:00	・テント片付け及び荷物の整理
	「テント設営」	9:00	<チャレンジ3>「海で遊ぼう」
16:30	<チャレンジ2>		生き物さがし
	「カレー作り」		ゴムボートを使った海遊び体験
18:00	・夕 食	11:30	・シャワー
19:00	・片付け	12:00	・昼 食（弁当）
19:45	・シャワー	13:00	<チャレンジ3>「漂流物アート」
20:30	・ナイトシアター	15:00	・ふりかえり
21:00	・就 寝	15:30	・別れのつどい
		16:00	・解 散

8 事業運営上の配慮

本事業では、従来行ってきた1・2・3年生という異年齢の集団に対する事業とは違い、1年生のみを対象とし、体験を通じた友達との交流活動や基本的な生活習慣の定着を目的として実施することとした。さらに、同じ子供、同じリーダーのもとで、年2回の事業を計画した。

- (1) 「早寝早起き朝ごはん」の実施や食事及び寝具の準備、後片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣への意識を高めさせるようにした。
- (2) フィールドアスレチックや錦江湾眺望ハイキング、海での活動などの自然体験活動を通して、体験することの楽しさを味わえるようにした。
- (3) ふれあいタイムや交流活動（ゲーム活動）を通して、友達の良さや協力することの大切さに気付かせるようにした。

9 事業の実際

(1) 第1回目の活動（6月17日～18日）

① ふれあいタイム

ふれあいタイムでは、初めて出会う参加者同士が、緊張をほぐしながら打ち解けられるように、「自己紹介すごろく」を行った。班付きのリーダー（学生ボランティア）を中心に進めることで、コミュニケーションをとることが苦手な子供たちも、楽しみながら自己紹介をすることができた。



② 元気よく遊ぼう

フィールドアスレチックの野外活動を実施した。職員及びボランティアの指導の下、安全確保を十分行って活動を行うようにした。はじめは怖がっていた子供たちも、少しずつ慣れ活動を楽しむことができた。ゴールした子供は2回目のアスレチックの活動にチャレンジするなど、意欲的に活動に参加することができた。



③ 読書を楽しもう

入浴後、キッズコーナーにてDVD視聴やボランティアによる読み聞かせ等を行った。また、それぞれの部屋に帰ってからもボランティアによる読み聞かせを行ったことで、スムーズに就寝へとつなげることができた。



④ 錦江湾眺望ハイキング

2日目は、錦江湾眺望ハイキングにチャレンジした。はじめに、霧島自然ふれあいセンターの職員から、ハイキング時の注意事項や安全指導があった。その後、本館から班毎に出発した。傾斜が急な登りのとんがり山では、かなりきつい様子だったが、友達と協力したり、声を掛け合ったりしながら登り切ることができた。錦江湾が眺望できる場所に到着した時には、「景色がきれい。とても気持ちいい。疲れがふっとんだ。」という歓喜の声が上がり、達成感を味わうことができた。



(1) 第2回目の活動（9月9日～10日）

① テント設営にチャレンジ

生活班の4・5人とボランティアで協力してテント設営を行った。シートを広げたり、フレームを組み立てたりと、1年生でもできることにチャレンジさせて取り組ませるようにした。その後、寝袋と銀マットを敷いて寝る準備を行った。初めてテントに寝る子供たちがほとんどで、秘密基地感覚で楽しみながらテント設営を行うことができた。



② 野外炊飯「カレー作り」にチャレンジ

野外炊飯では、カレー作りにチャレンジした。はじめに、霧島自然ふれあいセンターの職員から野外炊飯での安全面での指導があった。その後、野菜切り班とお米班に分かれて取り組むようにした。野菜班は、ピーラーと子供包丁を活用して安全に気を付けて取り組ませた。お米班は、焚きつけから釜でご飯を炊く作業、カレーの煮込みまでに取り組ませた。自分に与えられた役割を責任持って取り組むことができた。自分たちが作ったカレーをおいしそうに食べていた。



③ 海で遊ぼう「ゴムボートを使った海遊び」

海で遊ぼうでは、砂のアート作りとゴムボートを使った海遊びを前半後半に分かれて取り組んだ。砂のアート作りでは、班毎に自分たちで作りたいテーマを決めて取り組んでいた。ゴムボートを使った遊びでは、はじめにライフジャケットで浮く活動を行い、恐怖心を無くしてから活動を行うようにした。海で泳ぐこと自体が初めてだったり、足の届かない深い海で泳ぐのが初めてだったりする子供がたくさんいて、かなり興奮していた。みんな楽しく海での活動を行うことができた。



④ 漂流物アート作り

前日や当日に海岸散策して採取してきた貝殻やサンドグラス等の漂流物を使って、漂流物アート作りに取り組んだ。海をイメージした作品や漂流物からイメージを広げた作品等、一人一人自分なりの作品に仕上げることができた。

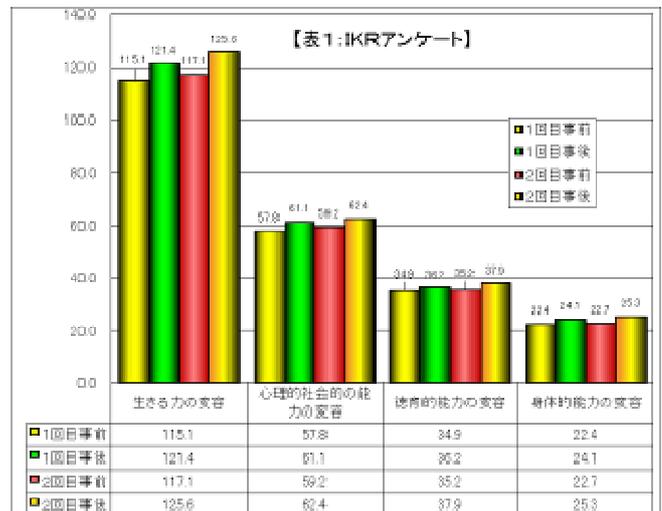


10 IKRアンケート結果

子供といっしょに自分自身をふりかえることを保護者に依頼しIKRアンケート実施した。生きる力の変容を見ると、1回目事前から事後で6.3ポイント、2回目事前から事後で8.5ポイント、1回目事前から2回目事後で10.5ポイント上昇していた。

【表1】

28調査項目の中で、0.5ポイント以上の伸びが見られたのが、「小さな失敗をおそれない。0.57ポイント上昇」・「先を見通して、自分で計画が立てられる。0.83ポイント上昇」（心理的社会的能力）、「お金やモノのむだ使いをしない。0.77ポイント上昇」（徳育的能力）、「ナイフ・包丁



などの刃物を、上手に使える。0.93ポイント上昇」・「洗濯機がなくても、手で洗濯できる。0.75ポイント上昇」（野外技能・生活），以上の5項目であった。このことは，2回の活動を通して，1年生にとって初めてチャレンジすることが数多くあったが，1年生なりにできることに取り組ませたことで，「できた」という自信から，「失敗を恐れず」何事にもチャレンジしようとする前向きな姿勢につながったと考えられる。また，2回目では，テントを立ててその中で寝たり，野外炊飯で包丁等を使って料理をしたりしたことで，野外技能が身に付いたと考えられる。

1.1 参加者感想の変容（もう少しだったこと）

1回目の感想（右上）では，「頑張りがかった。」「できなかった。」という反省だけで終わっていたが，2回目の感想（右下）では，「もっと〇〇すればよかった。」「もっと〇〇になりたい。」と，今後の目標を掲げるなど，自分自身をしっかり振り返り、前向きな捉え方をする児童が増えたことが分かる。このことは，2回の活動を通して，様々体験を行う中で，「できるようになった」ことが増えたことで，自分に自信が付き，さらなる上を目指すという意欲につながったためと考えられる。また，班の仲間で頑張っている友達や上手にしている友達を見たことで刺激を受けて，「自分もそのようになりたい。」と目指す目標ができたことも考えられる。

1回目の子供の感想(もう少しだったこと)

- ▼ 山登りをもっと頑張りがかった。
- ▼ 布団敷き(ベッドメイキング)がうまくできなかった。
- ▼ ご飯を食べるのが遅かった。残した。
- ▼ 朝、自分で起きることができなかった。
- ▼ もうすこし大きな声を出せばよかった。
- ▼ 泣いてしまった。
- ▼ もっと友達をつくりたかった。自分から声をかけられなかった。
- ▼ 友達にやさしくできなかった。

2回目の子供の感想(もう少しだったこと)

- ▼ お茶碗をもう少しきれいに洗いがかった。
- ▼ カレーを作る時、もっと手伝いをすればよかった。
- ▼ 皮むきがあまりできなかったから、次はもっと上手になりたい。
- ▼ ご飯が早く食べられなかった。早く食べられるようになりたい。
- ▼ 掃除があまりできなかった。片付けや掃除をもっと頑張りたい。
- ▼ 泳ぎがあまりできなかった。次はもっと上手に泳げるようになりたい。
- ▼ へんな言葉を使った。 ▼ 姿勢が悪かった。

1.2 保護者の感想

1回目 保護者の感想

- ・ 初対面の人の前でも、物怖じしなくなった。
- ・ 親元離れて一人で泊まれたことで自信がついた。
- ・ 物事に積極的に興味を持つようになった。
- ・ 物事を楽しんで取り組めるようになった。
- ・ 食事を残さず食べるようになった。
- ・ 朝自分で起きられるようになった。
- ・ 脱いだ服を丁寧にたたむようになった。
- ・ 家族分のご飯をよそってくれるようになった。

2回目 保護者の感想

- ・ 自信を持ち、生き生きと学校に行くようになった。
- ・ 自分の思いや気持ちをよく話すようになった。
- ・ 学校でも「やりたい」と自分から言うことが多くなった。
- ・ 自信がついたのかチャレンジ精神旺盛になった。
- ・ 料理に興味を持ち、夕飯のお手伝いをするようになった。
- ・ 一人でお風呂に入ったり眠ったりできるようになった。
- ・ 自然に興味が出て、星を見たり、海で貝拾いしたりした。
- ・ 最後まで諦めなくなった。 ・我慢ができるようになった。

上図は，1回目と2回目の保護者の感想をまとめたものである。2回の活動を通して，1年生一人でできるようになったことが増えたことや，体験活動を通して身に付けた自信から，物事へ積極的に取り組む姿勢や意欲につながったことが伺える。

1.3 成果

- 親元を離れて宿泊を伴う生活ということもあって不安や緊張を抱える中，各種体験活動や共同生活を体験することで，基本的な生活習慣を身に付けるきっかけを作ることができた。
- 同じ参加者で，2回通して事業を行ったことで，子供たちの成長や変容を見ることができた。
- 少々困難なハイキングやテント設営，カレー作り等で，1年生なりにできることを取り組ませたことで，「できた」という自信につなげることができた。
- 1班4人で，班付きボランティア1人を配置したことで，きめ細やかな指導や対応を行い，安全に活動を進めることができた。